県立博物館整備に関するこれまでの検討内容の整理

（未定稿）

	答申	整備	提言	提言	整備方針
名称	**「三重県における博物館構想」答申**（※1）	**三重県センター博物館（仮称）基本計画**	**新しい博物館を考える懇話会**	**博物館整備検討プロジェクト会議提言**	**三重県立博物館整備方針**
時期	昭和61年2月	平成6年3月	平成12年3月	平成16年1月	平成17年3月
特徴	**センター博物館（中央博物館）と5つのテーマ博物館（地域専門博物館）によるネットワークの構築を目指す。**	**県民の学習と学術文化の拠点、三重県の自然・歴史・文化のデータバンクとして、県民の交流と地域の国際化を展開する総合・センター博物館。**	**自然系に重点を置いた博物館。県民が主体的に企画・運営に関わる県民参画型の博物館を打ち出す。**	**コア博物館とサテライト（圏域博物館）が活動の両輪となる県民参画型の総合博物館。生涯学習施設・県総合文化センターとの連携を重視。**	**平成16年の提言をうけて県教委がまとめた整備方針。〈→ただし、財政的事情から、博物館整備の見送り・現博物館改修（暫定整備）と移動展示の先行実施が当面の方針となる〉**
目的	①新たな文化を創造する場を目指す ②三重県の自然及び歴史文化の保全と紹介	三重県の自然・歴史・文化を総合的にとらえ、日本・世界の中での位置づけを探るとともに、**県民の交流**と**地域の国際化**をうながす活動の場づくりを行う。 ・**県民の学習と学術文化**の発展に寄与する博物館 ・三重県の自然・歴史・文化の**データバンク**となる博物館	過去・現在を知ることにより、自然と人の未来を考える役割を担う。企画段階からの**県民参画**や、五感による感受性、**体験型を重視**した活動を行い、活動全般に**県民が主体的に関わり**、誰でもが楽しむことができる博物館とする。 ・未来を考える博物館 ・楽しい博物館	人づくりに役立つ生涯学習施策を提供し、三重県を魅力ある社会にするための活動を行い、その拠点となる。 ・高度化多様化する生涯学習ニーズを支援 ・三重県を記録・保存・後世に伝える ・三重県を研究し、住みやすい三重県づくりに役立てる ・社会支援（自然保護等）を行う県民の交流拠点の場を担う	人づくりに役立つ生涯学習施策を提供し、三重県を魅力ある社会にするための活動を行い、その拠点となる。
性格	総合博物館	総合博物館	自然系に重点をおいた博物館	総合博物館	総合博物館
テーマ			「自然と人の交差点」	「みえ　人と自然の対話」 （サブテーマを5～6年ごとに設定）	「みえ　人と自然の対話」 （サブテーマを5～6年ごとに設定）
基本的な考え方（コンセプト）	①三重県の独自性を打ちだした博物館 ②具体的な課題を軸に、学際・国際的な交流ができる博物館づくり ③親しみやすく魅力に富む博物館 ④学校教育・生涯学習と博物館の連携 ⑤最も進んだ情報技術を取り入れた博物館間の連携 ⑥真のニーズに立脚した博物館づくり	**「総合博物館」**と**「センター博物館」**の二つの考え方と、**「県民に開かれた博物館」**という性格を合わせもつ博物館と位置付ける。 （21世紀を想定した博物館・地域特性を活かした拠点となる博物館） ・人文科学、自然科学それぞれの分野の高度な専門化をめざす。 ・三重県の自然・歴史・文化の関わりを総合的に探求する。 ・ひと・もの・情報の交流と国際化を推進。 ・親しみやすく県民に開かれた博物館活動を実践。	開かれた博物館 地域とともに活動をする博物館 三重県を中心とした自然を舞台とする生命の営みについて、三つの柱（**大地・生命・人**）に基づき、教育研究する機関・施設。	「豊かなみえの自然と歴史を発見し、体験し、感動するミュージアム」 常にわくわくする心と新しい出会いがある博物館を目指す。 基盤 ①人文・自然・社会等に関する資産の収集・収蔵・研究施設 ②展示施設及び県民ギャラリー ③サテライト（圏域博物館）及びネットワークの構築 ④生涯学習施設及び県総合文化センターとの連携（施設・設備の相互利用）→県の中核的文化ゾーン・生涯学習の場所（キュオリシティ〈好奇心〉タウンの中核施設になる。	
機能	①全県的な観点にたった学術研究・普及公開 ②自然環境保全・文化財の保護 ③地域博物館とのネットワーク ④地域博物館への専門的支援 ⑤県内社会教育機関（図書館・美術館・文化会館・公民館等）との機能分担・総合化による生涯学習活動の推進	調査研究・収集保存活動・教育普及活動などの基礎的な博物館活動に加えて、以下の機能をはたし、21世紀の新世代の博物館として、参加体験性や国際性の流れを踏まえた博物館運営を行い、県民の学習と学術文化の拠点として機能する。 ・**総合研究活動**（三重の自然・歴史・文化の総合的な研究） ・サロンミュージアム活動（→博物館活動への県民の参加、博物館サポートスタッフの育成） ・情報センター活動（国内外の研究成果情報をデータベース化し、情報交流の拠点として、県内博物館・県民に提供する）	①子どもがいきいきする面白い活動 ②全県的な教育活動 ③自然と人のかかわりのわかる展示 ④情報センターとしての活動 ⑤資料の保存と自然の保護 ⑥基礎的な調査研究活動（自然誌・博物館研究） ⑦博物館ネットワーク（学校・県内地域博物館・大学研究施設との連携）	①三重県の人づくりを支援するシンクタンク機能 ②三重県の生涯学習施策の総括的機能（総文センターとの連携） ③社会貢献運動、文化活動を支援 ④三重県の課題や潜在的な問題を研究（シンクタンク機能） ⑤三重県の全体像を表し、人々に示す ⑥三重県の文化を県外に発信する（「みえ学」の構築） ⑦三重県の子どもたちの教養増進を図る（実物資料を使った授業プログラムなど）	主体事業 ①収集・保存②調査・研究③展示④教育普及 支援事業 ①学校教育支援②自然保護・環境教育支援③文化振興支援④地域振興支援
構成	**センター博物館とテーマ博物館によるネットワークの構築を目指す。** **センター博物館（中央博物館）** 情報センター機能と研究・指導に活動の比重を置き、県下の博物館活動の中核的機能をはたす。 **テーマ博物館（地域専門博物館）** 多様性に富む県内各地域のフィールドに立脚した地域別専門館を整備する。（伊賀・鈴鹿山系・斎宮・熊野・科学系の5テーマ→1989年に斎宮歴史博物館開館）	センター博物館として、県民の学習と学術文化の拠点となる。		コア博物館とサテライト（圏域博物館）を両輪として整備。 サテライトの施設としては、学校の空き教室・公民館等の既存の施設を活用していくものや、県内の他の博物館の協力によるものなどが考えられる。住民主体による恒常的な運営により、県立博物館の移動展示を行う。	①コア博物館：総合的な博物館機能を持つ拠点施設として設置 ②移動展示館：自然保護や地域文化への意識を深める場として、各地域で展示を実施

	答申	整備	提言	提言	整備方針
名称	「三重県における博物館構想」答申（※1）	三重県センター博物館（仮称）基本計画	新しい博物館を考える懇話会	博物館整備検討プロジェクト会議提言	三重県立博物館整備方針
時期	昭和61年2月	平成6年3月	平成12年3月	平成16年1月	平成17年3月
立地場所			立地環境 ・交通の利便性と駐車場の確保（子どもが自分で行くことができる場所） ・生態園や樹木園等の一体的整備が可能な周辺環境を持つ場所 ・土地の取得が容易で、造成のために新たな環境破壊を引き起こす恐れのない場所	三重県の地理的中心地 公共交通機関の利用が便利な場所 他の文化施設とのコラボレーション・総合的な文化事業を実施しやすい場所	コア博物館 県総合文化センター隣接地が相応しい（約2．5ha）
運営	**センター博物館**は、**県が主体**となり運営。 **テーマ博物館**は、原則的に**市町村・民間サイドが設立主体**となり、国および県が側面的に援助する（但し斎宮歴史博物館は、国史跡のため県が設置）		①運営を担う人（学芸員・教育普及を担当する教員・博物館運営の専門家・民間博物館関係者・ボランティア等） ②民間委託及びボランティア・NPO等の参画	運営 ①学校教育機関との密接な連携 ②ダイナミックな運営 ③NPO・ボランティア等県民参加 ④県内博物館との連携 ⑤ミュージアム・パーク的性格（知識の宝庫） ⑥マネジメント ⑦民間活力の導入	
施設規模		延床面積18,000㎡程度（別途公文書館を整備）		延床面積：8,000㎡	延床面積：8,000㎡
整備費		280億円程度（非公式）			約72億円（建設51億円＋土地21億円）

※1 「三重県における博物館構想」は、三重県全体における博物館整備についての答申であり、県立博物館のあり方のみを扱ったものではないが、本表の作成にあたっては、県立博物館にかかる記述を中心に整理をおこなった。